

幼児教育・学校教育に携わるすべてのみなさんへ

育ちと学びをつなぐ



園と学校間の引継ぎに関して

10月21日(木)第2回幼保小接続期研修会を開催しました。その際、卒園入学を迎える子どもに関する園と小学校間の引継ぎに関して、子ども青少年局幼保小連携担当が情報提供をしました。幼保小の連携・接続において、ポイントになる部分ですので、この場をお借りして、改めて情報提供をいたします。



(こ青局幼保小連携担当から)

園から小学校への引継ぎについて、主に口頭引継ぎや要録での引継ぎに関する留意点をお伝えします。今日は、新任の児童支援専任教諭(以下「専任教諭」と表記)の必須研修となっているため、多くの小学校の専任教諭が参加されています。

専任教諭とは、どのような役割なのか、園の皆さんに、あらためて知っていただきたいと思います。

児童支援専任教諭について(横浜版接続期カリキュラム平成29年度版「育ちと学びをつなぐ」p.88より)

○小学校には、全校に「児童支援専任教諭」が配置されています。

○いじめや不登校、発達障害などの子どもに関する諸課題対応への校内の中心的役割とともに、地域連携を進める対外的窓口を担う教員です。

○幼保小の接続に関することとして、いくつかのポイントがあります。

- ・入学前の子ども理解が大切です。そのために、①近隣の園に行く ②子どもたちと仲良くなる ③子どもの良さや、支援の仕方を知るなど、園の先生や子どもと「顔の見える関係」をつくり、支援体制をつくります。
- ・口頭及び文書での引継ぎを活用し、支援をつないでいきます。

引継ぎの際には、ぜひ、専任の先生から、園の先生に「年長児の遊びのブームは何ですか?」「どんな手遊びや歌が好きですか?」「流行っている絵本は何ですか?」と聞いてみてください。

園の先生のお話から、具体的な子どもの様子が思い浮かびますし、そこで得た情報は、次年度の1学年のカリマネにとって、大変貴重な情報になります。

・口頭による引継ぎ

学校で子どもたちが安心して過ごしていくため、ひとりひとりの支援内容を基本とした情報を共有し、学級づくりや学級編成の参考にしていきます。

【引継ぎ内容の例】

- | | |
|--------------|---------------|
| ○情緒面 | ○あいさつや身支度の様子 |
| ○健康状態 | ○生活上のきまりを守る様子 |
| ○食物アレルギー等 | ○集団生活(遊び)の様子 |
| ○交友関係 | ○話を聞く時の様子 |
| ○家庭での様子、家庭事情 | ○言葉でのやりとりの様子 |

園の先生の子どもに対する働きかけの手立て、環境設定など大切な支援方法を具体的に共有する

『育ちをみつめ、支援をつなぐ』



「健康なところに働きかける」～接続期研修会 田村和子先生ご講演から～

第2回接続期研修会では、横浜国立大学 教育相談・支援総合センターの田村和子先生からご講演をいただきました。冒頭、田村先生からは、「多くの保護者や子どもは園や学校の良さを知っている」「子どもにとっては、基礎学力や生活力、社会性を身につける安定した場であり、保育士や教員がそこで大切な役割を担っている」というお話がありました。さらに、子どもや保護者とのかかわりの中では、「誰にでも、健康な部分と、不健康な部分がある」ということを理解し、健康な部分に働きかけていくことが重要であるという指摘がありました。また、相手の訴えを傾聴しながらも、「あ、強い言葉を投げかけられちゃったな」「今、わたしと相手のやり取りは、自分が第三者だったらどう見えるんだろう」「わたしは、今、ちょっと傷ついたかもしれない」と客観的に捉えて、「『自分を支援する』ことも大切です」という投げかけがありました。

感想から（一部抜粋、改編）

- （当たり前のこと、伝えたいことを）言語化することに意味があり、音として伝えていくことで、いつか実を結ぶという事を聞き、悩んでいたことが軽くなりました。
- 今年度から専任になり、丁寧に対応していくことがとても重要だと感じています。伝え方は難しいですが、学校ができることとできないことはしっかりと伝えられるようにならなければいけないと感じました。近い距離で寄り添うことを大切にしていますが、意識的に距離をとったり調整したり、思いを受け止めないで寄り添う&自分の心も見るということも大切だと思いました。まずは、自分に配慮し、健康な心を保って子どもや保護者と関わっていきたいです。

1ページから続く

・要録 記述のポイント

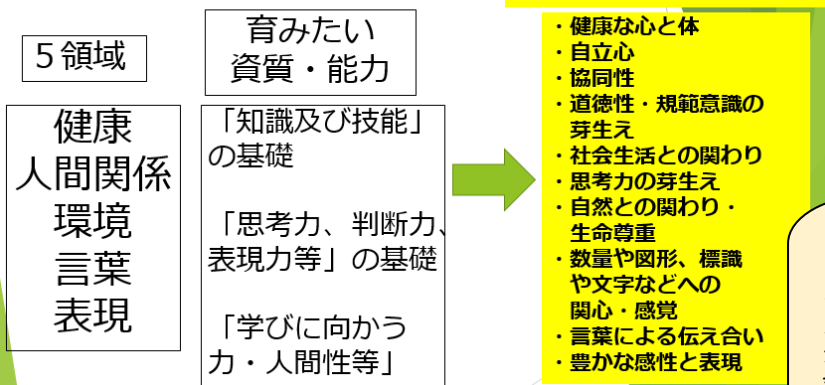
- ★文章は、短く簡潔に
- ★客観的に
- ★その子らしさをとらえて
- ★担任の先生が意識、工夫した支援の過程がわかるように
- ★ひとりひとりの子どものよさや全体像が伝わるように工夫する
- ★具体的でわかりやすい言葉で書く
- ★はじめて読む小学校の先生が、情景を浮かべられるような文章で
- ★子どもの発達や特性がイメージできるようにエピソードを記入するのよい

園の先生は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用しながら、小学校の先生が要録を読んだときに、具体的な支援策やかかわりのポイントが思い浮かぶように記述することを意識してください。

○園の先生に知っていただきたいこと
近年、30あまりの園から子どもが入学するという話も小学校から聞くようになりました。そのため、引継ぎの重要性を理解しながらも、時間を十分にかけることができない小学校の歯がゆさもうかがえます。引継ぎにおける要録の効果的な活用もご検討ください。

小学校の先生に知っていただきたいこと
新しい要領、指針のもと、園の先生方も新しい教育観を踏まえ、要録の記述を充実させようとしています。学級編制時だけでなく、学級担任決定後に学年で読み合わせスタートカリキュラムのヒントを見つけるような活用の工夫も見られています。

・要録について



園で育みたい資質・能力の三つの柱は、小学校と概ね共通しています。その力を発揮している子どもの姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されています。幼保小の先生方が意識的にこの言葉を（それぞれの説明として示されている内容を含め）使って、子どもの育ちをつなげていきましょう。

